

富山福祉短期大学の教育の学習成果

平成 30 年度卒業生 学習到達度評価の調査結果

富山福祉短期大学 教育課程改善委員会

はじめに

高等教育においては「教員の視点に立った教育」から、「学生の視点に立った学習」への変換が求められており、教員が「何を教えるか」から、学生が獲得すべきものとして、「何ができるようになるか」という視点に立った、学生の学習成果を明確に示し、それを測定し、改善していくことが求められている。「学習成果」を測定（点検・評価）する仕組みが「査定（アセスメント）」ということになる。

査定（アセスメント）は証拠を集め、「教育の質」を保証するための方法である。学生に対しては、テスト、レポート、観察記録などを行うことによって点検・評価する方法があり、組織的には、学生を対象にした調査、卒業生を対象にした調査、雇用者を対象にした調査、外部評価などによるものがある。

学習成果の査定（アセスメント）のサイクルのモデルとしては、①機関レベル/教育課程レベル/科目レベルなどで学生が身に付けて欲しいものを設定する、②教育の実施及び学習の評価、③学生がそれを身に付けたかどうか、データを収集し分析する、④その結果を査定し、次の行動計画を策定する。必要に応じて、改善点を検討し、修正を加える。これを絶えず繰り返して、さらに質の向上を目指していくことが重要である。

富山福祉短期大学では、科目レベルでは、それぞれの科目の到達目標に対応した評価方法を設定し、シラバスに明記し、これに従い厳格に成績評価を行っている。90点台4ポイント、80点台3ポイント、70点台2ポイント、60点台1ポイント、60点未満0ポイントとして単位当たりの平均ポイントを算出し、GPA (Grade point average) 値で評価している。各学生の結果は、学期毎に各学科・専攻にフィードバックされる。教育課程レベルの学習成果の査定（アセスメント）は、免許・資格の取得状況、国家試験の合格率、専門職への就職状況、4年生大学への進学などで評価している。卒業生の就職先からのアンケート結果も重視している。

また、各学科・専攻のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づいて作成された「学習到達度評価基準」を用いた学生による自己評価を、本学では最も重要な学習成果の指標としてとらえている。ルーブリックの考え方を取り入れた5段階の評価法である。平成24年度には卒業年度の学生に対して調査を行い、平成25年度から全学年の学生に対して2月に調査を行っている。さらに平成26年度からは、インターネットを利用した本学教職員と学生との双方向コミュニケーション・ツール「学生マイページ」を用いて、前期・後期の各学期初めに全学生が学習到達度評価基準を用いて自分の学習の進捗状況について自己診断をし、絶えず自己評価を繰り返しながら「つくり、つくりかえ、つくる」学習に役立てるシステムを構築した。こうした全ての結果について、各学科・専攻会議で改善への具体策が話し合われ向上・充実が図られている。

（参考資料）

- 1) 自己点検・評価報告書作成マニュアル（平成27年度用）一般財団法人短期大学基準協会編

学習到達度評価基準について

富山福祉短期大学では、学生が本学で学ぶことで「何ができるようになるか」という視点に立った学習成果を明示し、教育の質的改善のサイクルを構築するために、平成 24 年度にルーブリックの考え方を取り入れた学習到達度評価基準を構築した。

本学の教育は全ての学科・専攻において、専門的知識・技術、問題解決力、倫理観と自己管理能力、リーダーシップとコミュニケーション能力、および生涯学習力の観点から、カリキュラムが構成されており、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）においてもそれが明確に示されている。それらディプロマ・ポリシーに示されている学生が卒業までに「獲得すべきもの」について、教員と学生の双方が共通に評価するための客観的な基準として学習到達度評価基準は作成された。

平成 24 年度は、卒業年度の学生に対してのみの調査であったが、徐々に運用を拡大し、平成 26 年度からは、本学のインターネット・ウェブサイト「学生マイページ」を利用することにより、学生はいつでも評価基準を参照することができ、毎学期ごとに自己査定を繰り返すことで学習成果への意識づけを強化することができ、日々の学習に役立てることができ、本学の教育目標である「つくり、つくりかえ、つくる」教育を具体化するためのツールのひとつとして有用であることが明らかとなりつつある。

この評価基準を用いた調査を繰り返す中で、この基準の信頼性が非常に高いことが次第に分かってきた。本稿では、本学の教育の質的改善に資するために、平成 30 年度卒業生の学習到達度について、各学科・専攻において 1 年次前期（1 回目）・後期（2 回目）、2 年次前期（3 回目）・後期（4 回目）、看護学科は 3 年次前期（5 回目）・後期（6 回目）も含め、そして卒業直前の平成 31 年 2 月と継続的に実施してきた調査結果に基づいて、各学科・専攻の教育による学習成果について報告する。

社会福祉学科社会福祉専攻のディプロマポリシーと学習到達度評価基準

【評価の数値】→		5 とても 期待以上	4 やや 期待以上	3 期待どおり	2 やや不足	1 とても不足
1. 人を理解するための幅広い教養と福祉に関する専門的な知識を持ち、福祉の専門職として人を支援するための基本的技術を有している。		専門科目の講義・演習科目 GPA3.5以上	専門科目の講義・演習科目 GPA3.0以上	専門科目の講義・演習科目 GPA2.5以上	専門科目の講義・演習科目 GPA2.0以上	専門科目の講義・演習科目 GPA2.0未満
1-1. 社会福祉に関する基礎的な知識・技術について理解している。	社会福祉に関する基礎的な知識・技術的確に用いて実践できる	社会福祉に関する基礎的な知識・技術を理解しており、自分の言葉で説明できる	社会福祉に関する基礎的な知識・技術について理解している	社会福祉に関する基礎的な知識・技術の理解がやや不十分だが、支援を得て述べることができる	社会福祉に関する基礎的な知識・技術の理解が不十分で、述べるできない	
1-2. ソーシャルワークの理解や心理、アート、健康、スポーツ等の知識を身につけている。	各専門領域の基礎的知識を用いて的確に実践できる	各専門領域の基礎的知識を有しており、自分の言葉で説明できる	各専門領域の基礎的知識を有している	各専門領域の基礎的知識の理解がやや不十分だが、支援を得て述べるができる	各専門領域の基礎的知識の理解が不十分で、述べるできない	
1-3. 対人援助に必要な知識・技術について理解している。	対人援助に必要な知識・技術的確に用いて実践できる	対人援助に必要な知識・技術について、自分の言葉で説明できる	対人援助に必要な知識・技術を述べるができる	対人援助に必要な知識・技術についてやや理解不十分だが、支援を得て述べるができる	対人援助に必要な知識・技術について理解不十分で、述べるできない	
1-4. 利用者の立場にたって物事を判断し、理解していく力を身につけている。	利用者の立場にたって物事を判断し、理解していくための方法を自ら考え実践できる	利用者の立場にたって物事を判断し、理解していく姿勢を身につけている	利用者の立場にたって物事を判断し、理解していくための方法について、支援を得て述べるができる	利用者の立場にたって物事を判断し、理解していくための方法について、支援を得て述べるができる	利用者の立場にたって物事を判断し、理解していくための方法について、述べるできない	
1-5. 論理的な根拠をもって援助を計画的に実践していく力を身につけている。	自ら計画し実践している援助について論理的な根拠を説明することができる	自ら援助を計画し実践していくことができる	支援を得て、援助を計画し実践することができる	支援を得て、援助を計画することができる	援助を計画することができない	
2. 福祉の専門職として人権を尊重する高い倫理観を有し、専門的な知識を活用しながら、保健・医療・福祉・教育の関連職種と連携して、主体的に問題を解決する能力を有している。		総合科目及び専門演習科目及び実習科目 GPA3.5以上	総合科目及び専門演習科目及び実習科目 GPA3.0以上	総合科目及び専門演習科目及び実習科目 GPA2.5以上	総合科目及び専門演習科目及び実習科目 GPA2.0以上	総合科目及び専門演習科目及び実習科目 GPA2.0未満
2-1. 人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。	人間の行動や心理について、科学的根拠に基づいて説明できる	人間の行動や心理について客観的に説明できる	人間の行動や心理について多面的に理解する態度を有している	人間の行動や心理について、支援を得て述べることができる	人間の行動や心理について、説明することができない	
2-2. 問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決するための方法を自ら考え説明することができる。	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決するための方法を自ら考え説明することができる	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決することができる	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題の解決に向けて取り組むことができる	支援を得て、問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる	問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができない	
2-3. 価値観や倫理観と向き合いながら自らを律し、利用者を理解していることができる。	価値観や倫理観について自ら思考し、利用者理解において実践する方法を説明できる	価値観や倫理観と向き合いながら自らを律しつ、利用者を理解していくことができる	価値観や倫理観と向き合いながら自らを律する方法について述べるができる	価値観や倫理観について述べるができる	価値観や倫理観について述べるできない	
2-4. 他者と協調・協同して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。	課題解決のために、他者に方向性を示し、目標の実現のためにグループを形成し、活動することができる	グループにおいて他者と協調・協同しながら、課題解決に向けた方向性を示すことができる	グループにおいて他者と協調・協同して行動することができる	グループにおいて自分の役割を自覚し、活動に積極的に参加できる	グループ活動に積極的に参加できない	
3. 人や地域社会とあたたい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している。		ボランティア等の社会貢献活動に積極的かつ継続的に取り組んでいる	ボランティア等の社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	ボランティア等の社会貢献活動に参加している	ボランティア等の社会貢献活動に支援を得て参加している	ボランティア等の社会貢献活動にほとんど参加していない
3-1. 利用者にあつた方法でコミュニケーションを実践できる力を身につけている。	利用者を与える影響を考慮した上でコミュニケーションをとることができる	利用者の特性を理解して、適切なコミュニケーションをとることができる	利用者に合わせたコミュニケーションができる	支援を得て、利用者に合わせたコミュニケーションがとれる	利用者に合わせたコミュニケーションがとれない	
3-2. 情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身につけている。	情報機器を活用し、解りやすく効果的なプレゼンテーションができる	情報機器を活用したプレゼンテーションができる	専門的なことを解りやすく説明できる	専門的なことを説明できる	専門的なことを説明できない	
3-3. 感じたことや考察したことなどを記録したり、記述したりすることができる。	読み手に与える影響を考慮した上で感じたことや考察したことなどを記述することができる	読み手に解りやすく感じたことや考察したことなどを記述することができる	感じたことや考察したことなどを十分かつ正確に記述することができる	感じたことや考察したことなどを文法に従って記述することができる	感じたことや考察したことなどをきちんと記録することができない	
4. 福祉の専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。		自ら課題を見つけ、授業時間外の自己学習に積極的に取り組み、学内外の講演会や研修等に積極的に参加している	授業時間外の自己学習に自発的に取り組み、学内外の講演会や研修等に自主的に参加している	授業時間外の自己学習に取り組み、学内外の講演会や研修等に参加している	事前事後課題に取り組み、学内外の講演会や研修等に支援を得て参加している	自己学習に取り組まず、学内外の講演会や研修等にほとんど参加していない

社会福祉学科介護福祉専攻のディプロマポリシーと学習到達度評価基準

【評価の数値】→	5 とても 期待以上	4 やや 期待以上	3 期待どおり	2 やや不足	1 とても不足
1. 人を理解するための幅広い教養と福祉に関する専門的な知識を持ち、福祉の専門職として人を支援するための基本的技術を有している。	講義・演習科目のGPA3.5以上	講義・演習科目の3.0GPA以上	講義・演習科目のGPA2.5以上	講義・演習科目のGPA2.0以上	講義・演習科目のGPA2.0未満
1-1. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識を習得している。	介護に関する基礎的な知識・技術を的確に用いて実践できる	介護に関する基礎的な知識・技術を理解しており、自分の言葉で説明できる	介護に関する基礎的な知識・技術について理解している	介護に関する基礎的な知識・技術の理解がやや不十分だが、支援を得て述べる事ができる	介護に関する基礎的な知識・技術の理解が不十分で、述べる事ができない
1-2. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的知識を習得し、理解している。	介護に関する社会保障制度や施策についての基礎的な知識を用いて的確に実践できる	介護に関する社会保障制度や施策についての基礎的な知識を有しており、自分の言葉で説明できる	介護に関する社会保障制度や施策についての基礎的な知識を有しており、述べる事ができる	介護に関する社会保障制度や施策についての基礎的な知識の理解がやや不十分だが、支援を得て述べる事ができる	介護に関する社会保障制度や施策についての基礎的な知識の理解が不十分で、述べる事ができない
1-3. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解している。	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について、他者に理解しやすく説明できる	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について、自分の言葉で説明できる	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解している	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義についての理解がやや不十分だが、支援を得て述べる事ができる	介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義についての理解が不十分で、述べる事ができない
1-4. あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術を習得している。	あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術を、自ら実践し、かつ説明できる	あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術を、自ら実践できる	あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術を、支援を得て実践できる	あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術について述べる事ができる	あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術について理解も習得もしていない
1-5. 介護実践の根拠を理解している。	介護実践の根拠を理解しており、他者に理解しやすく説明できる	介護実践の根拠を理解しており、自分の言葉で説明できる	介護実践の根拠を理解しており、述べる事ができる	介護実践の根拠についての理解がやや不十分だが、支援を得て述べる事ができる	介護実践の根拠の理解が不十分で述べる事ができない
1-6. 利用者本位・自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につけている。	利用者本位・自立支援に資するサービスを自ら提供できる	利用者本位・自立支援に資するサービスを、支援を得て提供できる	利用者本位・自立支援に資するサービスについて述べる事ができる	利用者本位・自立支援に資するサービスについての理解がやや不十分だが、支援を得て述べる事ができる	利用者本位・自立支援に資するサービスについての理解が不十分で述べる事ができない
2. 福祉の専門職として人権を尊重する高い倫理観を有し、専門的な知識を活用しながら、保健・医療・福祉・教育の関連職種と連携して、主体的に問題を解決する能力を有している。	実習科目のGPA3.5以上	実習科目のGPA3.0以上	実習科目のGPA2.5以上	実習科目のGPA2.0以上	実習科目のGPA2.0未満
2-1. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	介護に関わる問題を科学的あるいは法的根拠に基づいて複眼的、論理的に分析し、解りやすく説明できる	介護に関わる問題を複眼的、論理的に分析し、説明できる	介護に関わる問題を複眼的、論理的に自ら理解する態度を有している	介護に関わる問題を、支援を得て複眼的、論理的に理解する事ができる	介護に関わる問題について、複眼的、論理的に理解する態度を有していない
2-2. 問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。	介護に関わる問題を自ら発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決するための方法を自ら考え、実践することができる	介護に関わる問題を自ら発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題の解決に向けて取り組むことができる	介護に関わる問題について、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる	介護に関わる問題について、支援を得て、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができる	介護に関わる問題について、解決に必要な情報を収集・分析・整理することができない
2-3. 自らを律して行動できる。	人権を尊重する高い倫理観を有し、自らを律しつつ、利用者の支援に向けて行動できる	自らを律しつつ、利用者の支援に向けて行動できる	自らを律することの意義と方法について述べる事ができる	支援を得て、自らを律することの意義と方法について述べる事ができる	自らを律することの意義と方法について理解が不十分で述べる事ができない
2-4. 他の職種の役割を理解しチームに参画する能力を身につけている。	課題解決のために、他者に方向性を示し、目標の実現のためにグループを形成し、活動することができる	グループにおいて他者と協調・協同しながら、課題解決に向けた方向性を示すことができる	グループにおいて他者と協調・協同して行動することができる	グループにおいて自分の役割を自覚し、活動に積極的に参加できる	グループ活動に積極的に参加できない
2-5. 尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につけている。	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につけており、自ら実践できる	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理について、自らの言葉で説明できる	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理について、述べる事ができる	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理について、支援を得て述べる事ができる	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理についての理解が不十分で述べる事ができない
3. 人や地域社会とあたかも関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している。	ボランティア等の社会貢献活動に積極的かつ継続的に取り組んでいる	ボランティア等の社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	ボランティア等の社会貢献活動に参加している	ボランティア等の社会貢献活動に支援を得て参加している	ボランティア等の社会貢献活動にほとんど参加していない
3-1. コミュニケーションのとり方の基本を身につけている。	利用者に与える影響を考慮した上でコミュニケーションをとることができる	利用者の特性を理解して、適切なコミュニケーションをとることができる	利用者に合わせたコミュニケーションができる	支援を得て、利用者に合わせたコミュニケーションがとれる	利用者に合わせたコミュニケーションがとれない
3-2. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につけている。	他者に共感し、相手の立場に立って考える姿勢に基づいて問題解決に向けて、自ら行動できる	他者に共感でき、相手の立場に立って考える姿勢に基づいて行動できる	他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につけている	他者に共感する姿勢を身につけている	他者に共感する姿勢を身につけておらず、相手の立場に立って考える事ができない
3-3. 的確な記録・記述の方法を身につけている。	読み手に与える影響を考慮した上で感じたことや考察したことを記述することができる	読み手に解りやすく感じたことや考察したことを記述することができる	感じたことや考察したことを十分かつ正確に記述することができる	感じたことや考察したことを文法に従って記述することができる	感じたことや考察したことをきちんと記録することができない
4. 福祉の専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。	自ら課題を見つけ、授業時間外の自己学習に積極的に取り組み、学内外の講演会や研修等に積極的に参加している	授業時間外の自己学習に自発的に取り組み、学内外の講演会や研修等に自主的に参加している	授業時間外の自己学習に取り組み、学内外の講演会や研修等に参加している	事前事後課題に取り組み、学内外の講演会や研修等に支援を得て参加している	自己学習に取り組みず、学内外の講演会や研修等にほとんど参加していない

看護学科のディプロマポリシーと学習到達度評価基準

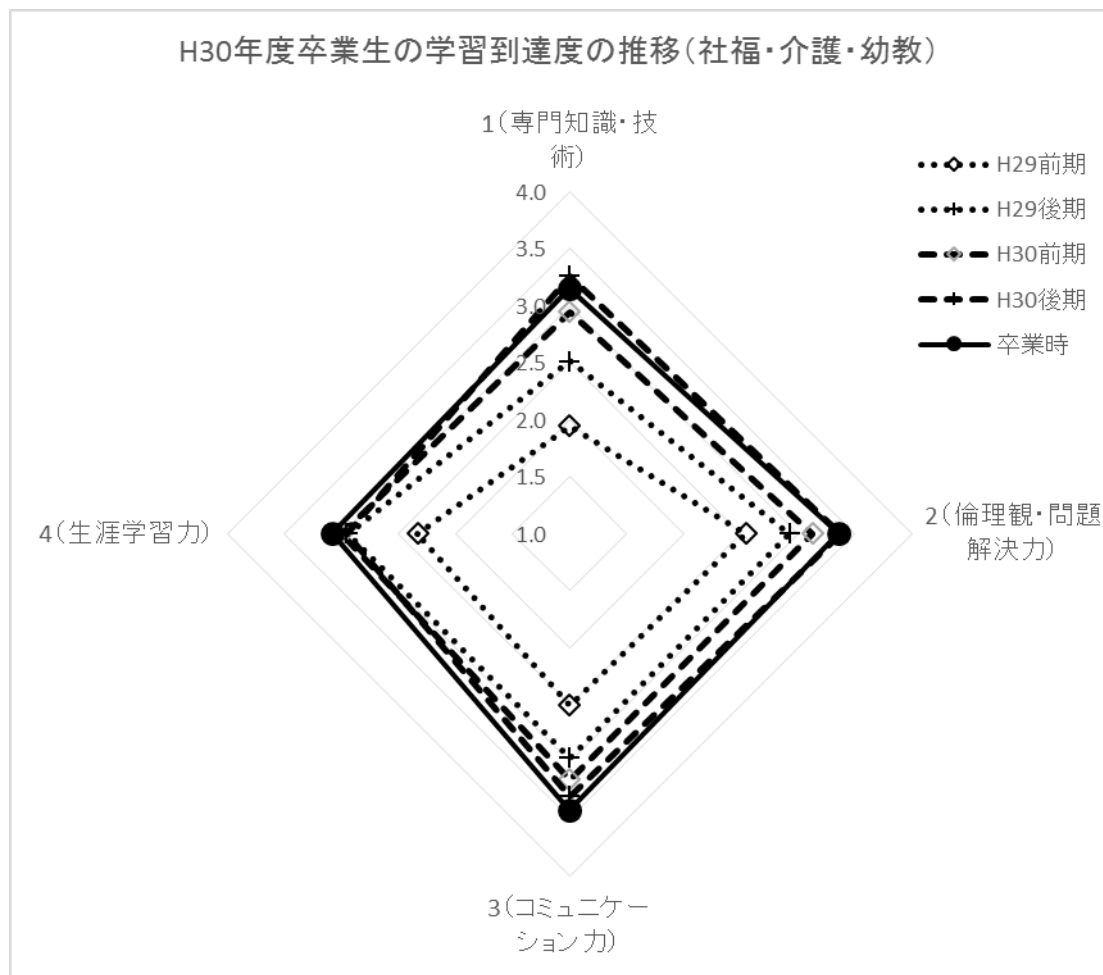
【評価の数値】→	5 とても 期待以上	4 やや 期待以上	3 期待どおり	2 やや不足	1 とても不足
1. 人を理解するための幅広い教養と福祉に関する専門的な知識を持ち、看護の専門職として人を支援するための基本的技術を有している。	講義・演習科目の GPA3.5以上	講義・演習科目の GPA3以上	講義・演習科目のGPA2.5以上	講義・演習科目の GPA2.0以上	講義・演習科目の GPA2.0未満
1-1. 看護に活用される理論の基礎的知識を身につけ、未来で活躍する看護職としてのビジョンを有している。	自らの言葉で 目指す看護師像と課題を他者に伝え、話し合うことができる	自らの言葉で 目指す看護師像と課題を他者に伝えることができる	自らの言葉で 目指す看護師像と課題を述べることができる	支援を得て自らの言葉で目指す看護師像と課題を述べることができる	目指す看護師像と課題を述べるためにかなりの支援を要する
1-2. 看護の対象であるあらゆる人々と家族の健康と生活についての理解を深めることができる。	看護の対象の健康と生活の理解を深める方法を自分で考え実践できる。	看護の対象の健康と生活の理解を深める具体的方法を説明できる。	看護の対象の健康と生活の理解を深める方法について項目を挙げることができる。	看護の対象の健康と生活の理解を深める方法について思い浮かべることができ支援を得て述べるができる。	看護の対象の健康と生活の理解を深める方法について自分の言葉で表現できない
1-3. 対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深めることができる。	対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深める方法を自分で考え実践できる。	対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深める具体的方法を説明できる。	対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深める方法について項目を挙げることができる。	対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深める方法について思い浮かべることができ支援を得て述べることができる。	対象を支える保健・医療・福祉従事者および地域の人々への理解を深める方法について自分の言葉で表現できない
1-4. 看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深めることができる。	看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深める方法を自分で考え実践できる。	看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深める具体的方法を説明できる。	看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深める方法について項目を挙げることができる。	看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深める方法について思い浮かべることができ支援を得て述べる ことができる。	看護実践に必要な内容・方法に関する知識・理解を深める方法について自分の言葉で表現できない
1-5. あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備を自分で整えることができる	あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備を自分で整えることができる	あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備について説明できる。	あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備について必要な項目を挙げることができる	あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備について思い浮かべることができ支援を得て述べる ことができる。	あらゆる場において看護を実践するための応用可能な基本的技術を実施するための準備について自分の言葉で表現できない
2. 看護の専門職として人権を尊重する高い倫理観を有し、専門的な知識を活用しながら、保健・医療・福祉・教育の関連職種と連携して、主体的に問題を解決する能力を有している。	実習科目の GPA3.5以上	実習科目の GPA3.0以上	実習科目の GPA2.5以上	実習科目の GPA2.0以上	実習科目の GPA2.0未満
2-1. さまざまな知識・技術を統合し活用するために論理的に考える姿勢を有している。	自分が看護実践するために必要な知識や技術について、必要となる根拠を挙げて説明できる。	自分が看護実践するために必要な知識や技術について、必要となる根拠を挙げることができる。	自分が看護実践するために必要な知識や技術の項目を挙げることができる。	自分が看護実践するために必要な知識や技術について、支援を得て項目を挙げることができる。	自分が看護実践するために必要な知識や技術について、自ら挙げる ことができない。
2-2. 知識を活用し、看護過程の展開ができる。	自分が実施した看護過程の展開について根拠を示して説明できる。	自分が実施した看護過程の展開において不足する学習項目について学習し、支援を得て看護過程の展開と関連付けて説明できる。	自分が実施した看護過程の展開において不足する学習項目を挙げることができる。	自分が実施した看護過程の展開において必要な学習項目を支援を得て挙げることができる。	自分が実施した看護過程の展開において必要な学習項目を自ら挙げる ことができない。
2-3. 学習継続のために心身の健康と行動を自らまたは適切な支援を得て管理できる。	実習における欠席、遅刻、早退がない。	実習における欠席、遅刻、早退がそれぞれ1回以内であり、きちんと連絡がある。	実習における欠席、遅刻、早退がそれぞれ2回以内であり、きちんと連絡がある。	実習における欠席、遅刻、早退がそれぞれ3回以上であり、きちんと連絡がある。	実習における欠席、遅刻、早退がそれぞれ3回以上であり、連絡が不十分である。
2-4. 学習目標達成のために、自己の役割を理解し、グループでの学習、実習を遂行できる。	実習におけるグループでグループ活動を活性化し、グループとしての学習効果を高めている。	実習におけるグループでグループグループとしての学習効果を高めている。	実習におけるグループでグループにおける自分の役割を自覚し参加している。	実習におけるグループで支援を得てグループ活動に参加している。	実習におけるグループでグループ活動に参加できない。
2-5. 看護の対象である人々を護りその人々の代弁者となる意識を有している。	看護の対象者の尊厳と安全を護り、QOL向上のために貢献する意思をもって行動している。	看護の対象者の尊厳と安全を護り、QOL向上のために貢献する意思があり、支援を得て行動している。	看護の対象者の尊厳と安全を護り、QOL向上のために貢献する方法について述べる ことができる。	看護の対象者の尊厳と安全を護り、QOL向上のために貢献する方法について支援を得て述べる ことができる。	看護の対象者の尊厳と安全を護り、QOL向上のために貢献する方法について述べる ことができない。
3. 人や地域社会とあたたかい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している。	グループ活動やボランティア活動等に主体的に参画し、リーダーシップを発揮している。	グループ活動やボランティア活動等に主体的に参画している。	グループ活動やボランティア活動等に程度の支援を得て参画できる。	グループ活動等への参加に支援を要する。	グループ活動等への参加にかなりの支援を要する
4. 看護の専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。	学内外の講演会や研修会に自主的、積極的に参加し、効果的に自己学習の時間を確保している。	学内外の講演会や研修会に自主的に参加し、自己学習の時間の確保を確保している。	学内外の講演会や研修会に参加し、自己学習の時間の確保を心がけている。	学内外の講演会や研修会に支援を得て参加している。	学内外の講演会や研修会に参加にかなりの支援を要する

幼児教育学科のディプロマポリシーと学習到達度評価基準

【評価の数値】→	5 とても 期待以上	4 やや 期待以上	3 期待どおり	2 やや不足	1 とても不足
1. 保育や教育の基礎知識、あるいはその対象についての幅広い知識を有し、また保育の基本的な技術を有している。	講義・演習科目のGPA3.5以上	講義・演習科目の3.0GPA以上	講義・演習科目のGPA2.5以上	講義・演習科目のGPA2.0以上	講義・演習科目のGPA2.0未満
1-1. 福祉や保育・教育の基礎的な知識を習得し、現代の保育者として必要な役割について理解している。 1-2. 子どもの心身の発達および健康管理についての知識を習得している。 1-3. 乳児や障がい児も含め、様々な対象の子どもに対する保育のあり方や保育計画に関する知識を習得している。 1-4. 音楽、造形、体育などの活動を通して子どもの感性を育むことができよう、それらの基本的な技術を習得している。	福祉や保育、教育の基礎的な事項について他者にわかりやすく説明できる。また、自分が目指す保育者像とその課題について、他者に伝え、話し合うことができる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項について、また、自分が目指す保育者像について、他者にわかりやすく説明できる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について、他者にわかりやすく説明できる。	支援を得て、福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について、他者に説明できる。	福祉や保育、教育の基礎的な事項や保育者の役割について説明するためにかなりの支援を要する。
2. 保育者の社会的責任についての理解のもと、子どもが最善の利益を得られるよう保育・教育の計画を立案・実施する基礎的な力を有している。	実習科目のGPA3.5以上	実習科目のGPA3.0以上	実習科目のGPA2.5以上	実習科目のGPA2.0以上	実習科目のGPA2.0未満
2-1. 子どもの育ちを捉え、的確に保育記録等として表現する力を習得している。 2-2. 子どもの生活に即した保育・教育の計画を立案・実施し、自己評価する力を習得している。 2-3. 自らを律して行動する力を習得している。 2-4. 他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあおうとする能力を有している。 2-5. 保育者の社会的責任を理解し、子どもの最善の利益に配慮しようとする感覚を有している。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述でき、さらに、それらから子どもの内面を深く理解した内容まで記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。そして、これらの理解を翌日（後日）の振り返りに生かし実践できる。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述でき、さらに、それらから子どもの内面を深く理解した内容まで記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。	実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述できる。また、子どもとのかかわりについて具体的に記述できる。	以下の内容のいずれかにおいて指導者の支援を要する。①実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述すること。②子どもとのかかわりについて具体的に記述すること。	以下の内容のいずれかにおいて指導者の支援をかなり要する。①実習日誌において、子どもが経験している内容や子どもの育ちについて、具体的な姿が見えるように記述すること。②子どもとのかかわりについて具体的に記述すること。
3. 子どもと信頼関係を築く力を有している。また、保護者との初步的なコミュニケーションをとる力を有している。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりやエピソードについて2人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりやエピソードについて2人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりやエピソードについて2人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭において、子どもとの関わりやエピソードについて2人以上記述、口述できる。その際、子どもの行動や内面についての共感的理解が認められ、さらに、実際の支援やその意図に配慮が認められること。	実習報告書や実習日誌、あるいは口頭におけるエピソードの記述、口述において、子どもの行動や内面についての共感的理解が確認できない。あるいは、実際の支援やその意図について配慮が確認できない。
4. 保育者として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が5回以上ある。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が3回ある。	学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への自主的な参加が1回ある。	授業の一環としての学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への参加があるが、自主的な参加が認められない。	授業の一環としての学内外の講演会、研修会、ボランティア活動への参加がなく、また、自主的な参加も認められない。

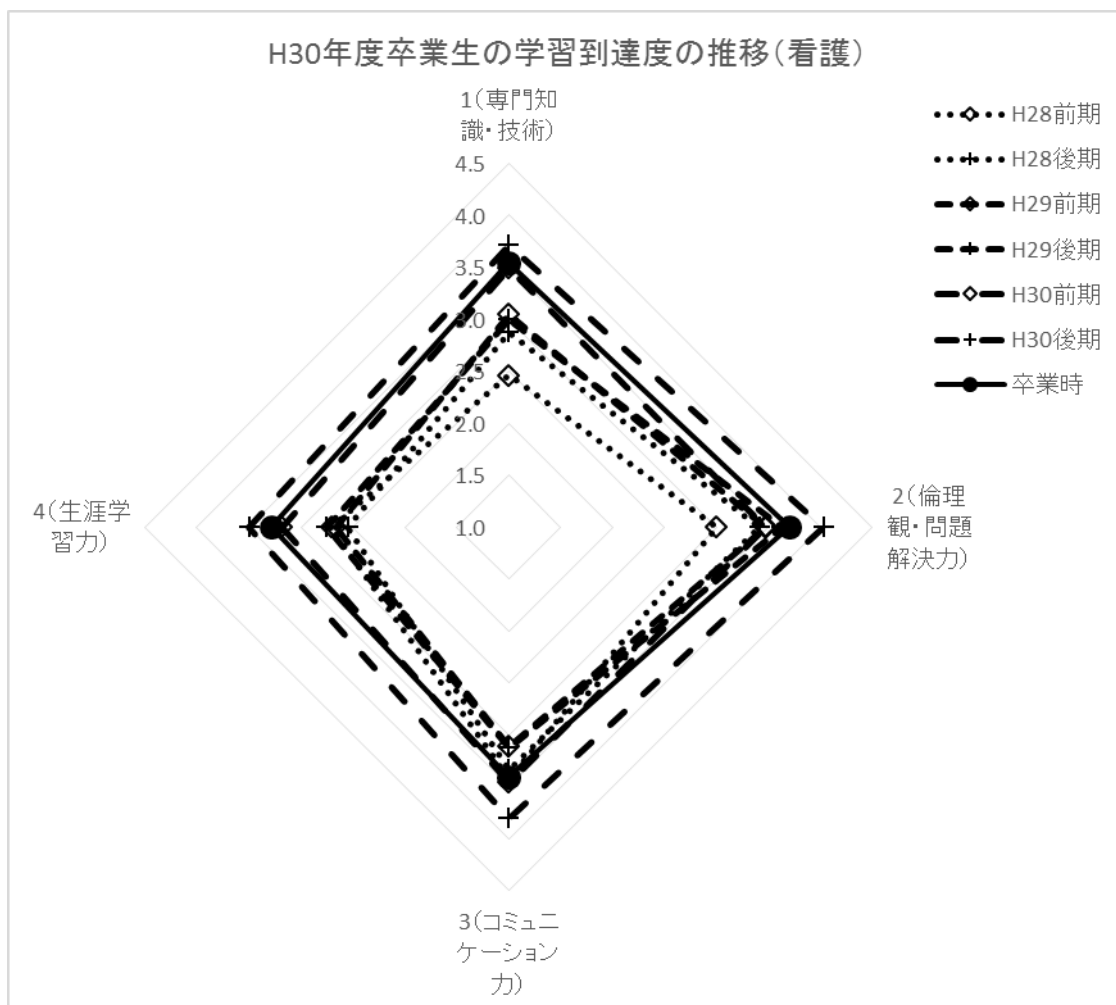
平成 30 年度卒業生の学習到達度評価の調査結果について（短大全体簡略版）

【2年制課程：社会福祉学科・幼児教育学科】



2年制課程である社会福祉学科（社会福祉専攻・介護福祉専攻）および幼児教育学科の卒業生について、学習到達度自己評価アンケートの2年間の推移を上図に示した。学習到達度評価基準の小項目の評点を平均したものを大項目の評点として算出した。1（専門知識・技術）、2（倫理観・問題解決力）、3（コミュニケーション力）、4（生涯学習力）全ての項目において、1年生前後に低かった評価が1年生後期に大きく向上していた。さらに1、2、3の項目においては、2年生後期に再び大きく向上している。1年生前期からの専門的な学びの積み重ねと、特に2年生での各学科・専攻での実習を経験する中で得られた学びが学習成果となって表れたものと考えられる。4（生涯学習力）に関しては、1年生前後に低かった自己評価が、本学の「つくり、つくりかえ、つくる」教育目標の下、週フォリオによる自己表現に取り組んだり、5S活動、サークル活動、福短祭、ボランティア活動など学内外の様々な活動に学生が積極的に取り組んだり、2年次に学習の総決算として卒業研究に取り組んだりしてきたことが成果となって表れたものであろう。

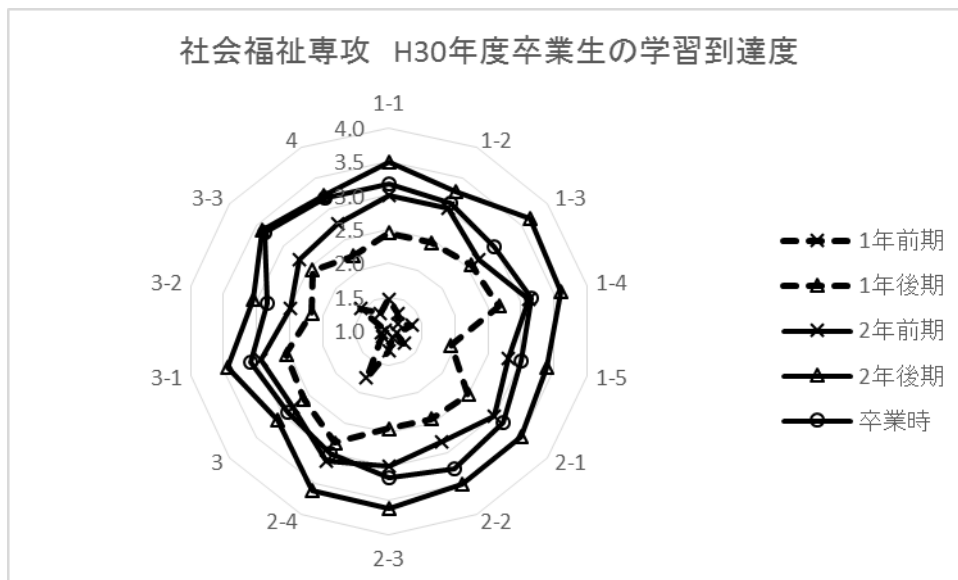
【3年制課程：看護学科】



3年制課程である看護学科の卒業生について、学習到達度自己評価アンケートの3年間の推移を上図に示した。学習到達度評価基準の小項目の評点を平均したものを大項目の評点として算出した。1（専門知識・技術）、2（倫理観・問題解決力）に関しては、1年生では低かった評価が2年生3年生となるにつれて大きく向上している。1年次からの専門的な学びの積み重ねに加え、各種の実習を経験する中で学んできたことが表れている。3（コミュニケーション力）および4（生涯学習力）については、2年次まであまり向上がみられなかったが、3年次にかけて大きく向上していた。本学の「つくり、つくりかえ、つくる」教育目標の下、週フォリオによる自己表現に取り組んだり、5S活動、サークル活動、福短祭、ボランティア活動など学内外の様々な活動に学生が積極的に取り組んだりすることで学んだこともあるが、特に2年次前期から始まる「看護研究」の授業や、2年次後期から始まる各領域別の「看護学実習」に学生が主体的に取り組む、学びを得たことが成果となって表れてきたものであろう。看護学科の推移の特徴として、卒業時の自己評価が低下していることが挙げられる。卒業・国家試験を目前に控えた時期に、自分に対する評価基準の解釈をより厳しく捉えるようになったためと考えられる。

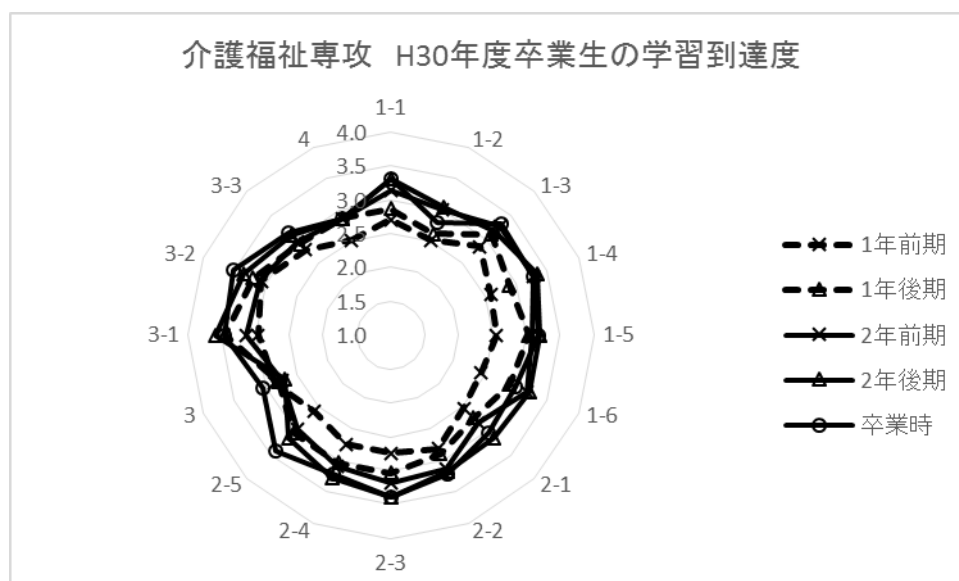
平成 30 年度卒業生の学習到達度評価の調査結果について（学科専攻別詳細版）

【社会福祉学科社会福祉専攻】



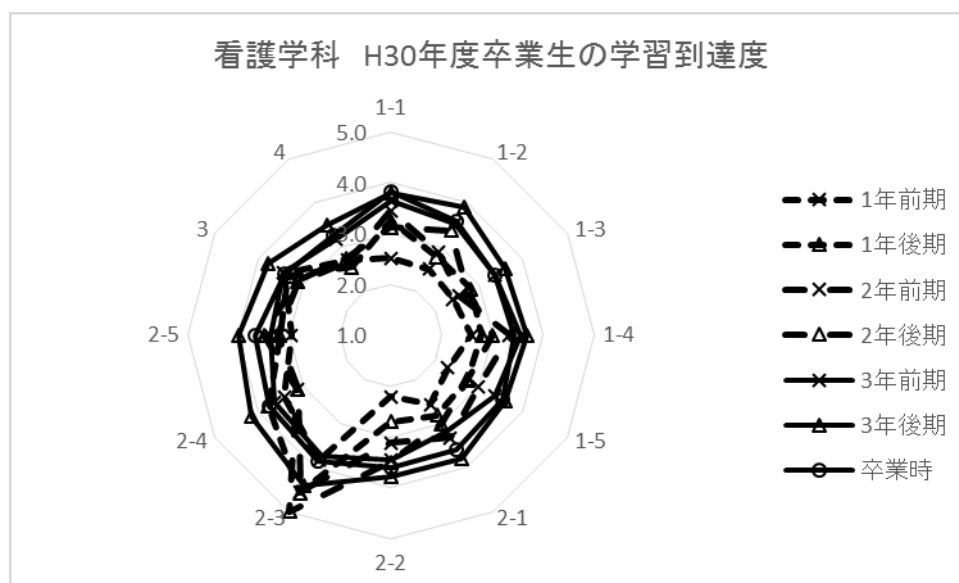
学習到達度評価基準の全ての項目において、入学当初の1年前期から卒業時にかけて、統計学的に有意な評点の上昇が認められた。具体的には、評価基準 1-1 から 1-5 にかけての「専門知識・技術の修得」、基準 2-1 から 2-4 にかけての「倫理観と問題解決力」、基準 3 から 3-3 にかけての「コミュニケーション力」、基準 4 の「生涯学習力」のいずれも向上していた。特に入学時に低かった基準 1-5「論理的な根拠をもって援助を計画的に実践していく力を身につけている」、2-2「問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる」、3-1「利用者にあつた方法でコミュニケーションを実践できる力を身につけている。」は、大きく向上している。援助の計画・実践力とコミュニケーション力が着実に学習成果として積み上げられていると評価できる。しかし、基準 3「人や地域社会とあたたかい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している。」と 3-2「情報を的確に伝える力や解りやすく説明できる能力を身につけている」については、入学時よりも大きく向上しているものの、他の項目ほど高くは評価されなかった。すなわち“人と関わる力と巻き込む力”は、授業だけでなく、ボランティア活動やサークル活動、社会貢献活動など学業以外の活動も含めて総合力として育成する必要がある。

【社会福祉学科介護福祉専攻】



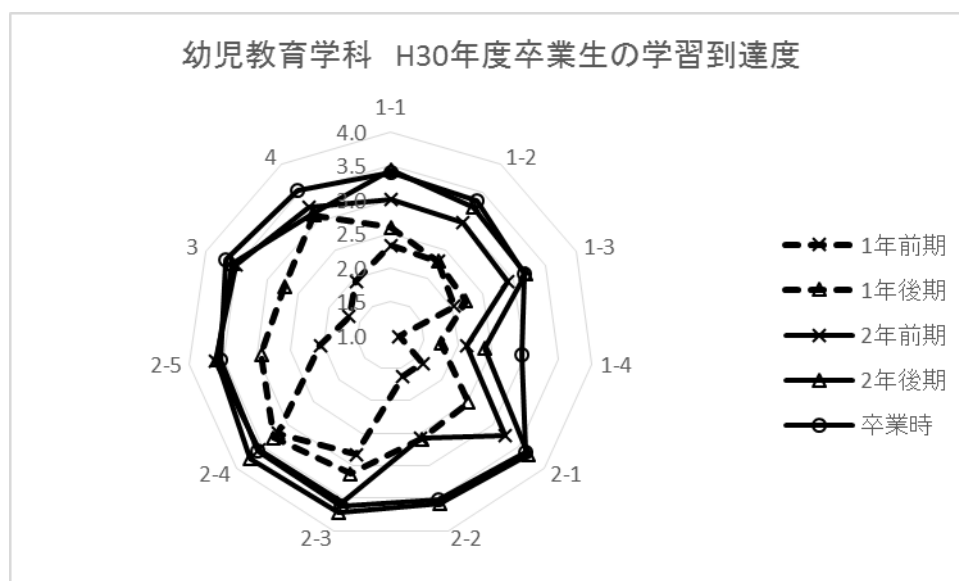
全体的には、入学時から卒業時に向けて向上していることが図から判る。特に統計学的に有意な向上した項目は、基準 1-1「あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識を習得している」、1-4「あらゆる介護場面に共通する基礎的な技術を習得している」、1-5「介護実践の根拠を理解している」、1-6「利用者本位・自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につけている」、2-1「情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。」、2-3「自らを律して行動できる」、2-5「尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理を身につけている」、3-1「コミュニケーションのとり方の基本を身につけている」であった。介護の知識・技術、生活支援における実践力、倫理観、コミュニケーションの基本スキルが学習成果として積み上げられてきたと評価できる。基準 1-2「介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的知識を習得し、理解している」および 4「福祉の専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している」については、卒業時においても評価が低く、社会保障制度の専門的知識の習得を強化する必要があることと、本学の「つくり、つくりかえ、つくる」教育を通して、「生涯学習力」を養っていく取り組みを強化していく必要がある。基準 1-3「介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解している」、3「人や地域社会とあたたかい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している」、3-2「他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につけている」については、入学時点で評点がすでに高かったため、向上してはいるものの統計学的に有意な差にはならなかった。

【看護学科】



基準3以外の全ての項目で入学当初の1年前期から卒業時にかけて、統計学的に有意な評点の上昇が認められた。具体的には、基準1-1から1-5の「専門知識・技術の修得」、基準2-1から2-5にかけての「倫理観と問題解決力」、基準3-1から3-3にかけての「コミュニケーション力」、基準4の「生涯学習力」のいずれも向上していた。特に評価の上昇の大きかった項目は、基準1-1「看護に活用される理論の基礎的知識を身につけ、未来で活躍する看護職としてのビジョンを有している」、2-4「学習目標達成のために、自己の役割を理解し、グループでの学習、実習を遂行できる」、2-5「看護の対象である人々を護りその人々の代弁者となる意識を有している」、4「看護の専門職として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している」であった。国家試験受験に向けた専門知識の習得や協働学習、実習等を経験する中で培われる倫理観、本学の「つくり、つくりかえ、つくる」教育による生涯学習力が学習成果として顕著に表れていた。逆に基準2-3「学習継続のために心身の健康と行動を自らまたは適切な支援を得て管理できる」は、2年次よりも3年次・卒業時の方が低下しているが、長期にわたる実習に取り組む中で、国家試験の受験勉強なども大きなストレスとなり、心身の不調を感じる学生が多かったのではないかと考えられる。看護師として自分の健康管理を実践する力を養う必要があるだろう。基準3「人や地域社会とあたたかい関わりをもち、円滑な人間関係を築き上げるコミュニケーション能力を有している」は、統計的に有意な向上がみられなかったが、これは1年前期の時点ですでに高い評点だったためである。

【幼児教育学科】



学習到達度評価基準の全ての項目において、入学当初の1年前期から卒業時にかけて、統計学的に有意な評点の上昇が認められた。具体的には、評価基準1-1から1-4にかけての「専門知識・技術の修得」、基準2-1から2-5にかけての「倫理観と問題解決力」、基準3の「コミュニケーション力」、基準4の「生涯学習力」のいずれも向上していた。特に評点の向上の大きかった項目は、基準1-1「福祉や保育・教育の基礎的な知識を習得し、現代の保育者として必要な役割について理解している」、1-4「音楽、造形、体育などの活動を通して子どもの感性を育むことができよう、それらの基本的な技術を習得している」、2-1「子どもの育ちを捉え、的確に保育記録等として表現する力を習得している」、2-2「子どもの生活に即した保育・教育の計画を立案・実施し、自己評価する力を習得している」、2-3「自らを律して行動する力を習得している」、2-4「他者と信頼関係を築き、目標実現のため協力し共に育ちあおうとする能力を有している」、2-5「保育者の社会的責任を理解し、子どもの最善の利益に配慮しようとする感覚を有している」、4「保育者として、よりよき社会の形成に自ら貢献する生涯学習力と実践力を有している」であった。専門科目の学習による専門知識・技術の修得、実習等を通しての実践力や倫理観の向上、また本学の「つくり、つくりかえ、つくる」教育による生涯学習力が学習成果として顕著に表れていた。特に基準1-4については、1年前期時点で極めて低い評価だったものが、次第に向上していき、音楽、造形、体育等の技術を着実に修得していったことが判る。基準2-2については、2年次後期に急激に伸びているが、これは各実習を乗り越えたことによるものであろう。

富山福祉短期大学 教育課程改善委員会

委員

四谷 真行	学事部長
宮嶋 潔	社会福祉学科長
境 美代子	看護学科長
石津 孝治	幼児教育学科長

発行 富山福祉短期大学

発行日 令和元年 5 月 28 日

※本稿の無断転載を禁ずる。